



6/14(金) 第1回の漢字検定を実施しました。小学3年生から高校3年生まで11名が受検!

高校生の勉強の様子

新学期から3ヶ月、とにかく来る日多くすることです!

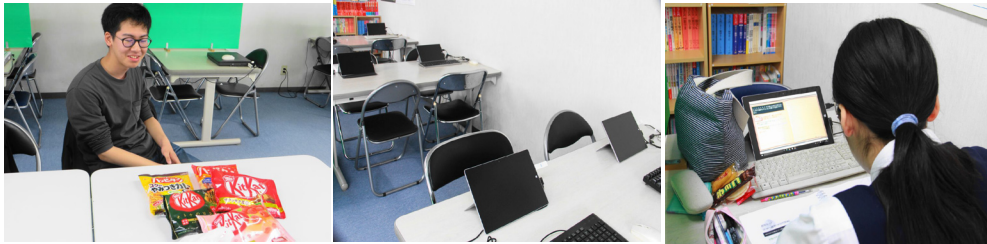


6/15,16 定期テスト対策の第1回1000分特講を実施しました。2日間で17時間ほどひたすら各学校のテスト範囲の問題を。(左下は嬉しい昼食)

テスト勉強する中2生



6月もたくさんの差入やお土産を頂きました。差入して下さいお母さん方有難うございました。またJRの浦田君もいつもありがとうございます。また宜しくお願い!



アルバイトで得た収入で、約束の差入れをしてくれた高専生の田中君。タブレットPCを6台導入しました。今年の夏休みから小中学校にタブレットPCが導入されるそうです。塾では取り敢えず高校生が使っています。

AI VS 教科書が読めない子どもたち
新井紀子 著
人工知能は必要なのに、人間が勝つために合格レベル

ビジネス書大賞を受賞した、東大ロボの新井教授の「AI対教科書が読めない子供たち」を今読んでいます。感想は読み終えたらですね。

『こんな感じでいいの。。。』
令和になってもう二ヶ月が過ぎました。新しい時代に期待をしましたが、政治も行政もとんでもない方向に向かっていきます。あつたことを無い事にし、データを改ざん、捏造したインテリゲンチ資料の提出。さらには児童虐待に対応する児童相談所や教育委員会の無責任でいい加減な対応、救えたはずの幼い命、最終的に彼らが死に至らしめたに等しいと思います。

いじめを無くする、体罰禁止、虐待防止など建前論だけで、それらに対する意識も対応も呆れるばかりです。どうしてこんな国になったのでしょうか。生徒たちの日常でも問題だと思ふことがたくさんあります。

例えば釧路町のT中学校の生徒のバッグ(写真)、教材がびっしりで10kg前後もあります。それを毎日背負って通学、ほとんどの生徒は前かがみで歩いています。成長期の子供たちに大きな影響を与えます。特に一年生の女子は見ていて痛々しいくらいです。必要の無いものは置いて行ってもいい学校もあります。翌日の授業で使うものは決まっているはずですから。早急にきちんとした対応、配慮が必要だと思います。家庭から学校に要請すべきだと思います。

同じくT中学校の問題教師Y教諭は女子バスケット部の顧問で、今回の定期テスト三日前にもかかわらずまた、大会や試合でもないのに北見に遠征しました。理由を生徒に聞くと、市内のTN中学校と一緒に行くからかかる費用が安くて済むからだ、本当にそうだとしたら言語道断です。

通常、定期テストの一週間前は部活停止のはずで、今まではどこもそうでした。私学でもあるまいし部活動が定期テストより優先されるなど許されなはずです。(結果、テストの結果は：でした)

皆さんご存知の通り、この教諭は担任を外されています。担任を外された人が部活の顧問であること自体がおかしいと思います。

卒業生の中にも被害にあった生徒が何人もいますし、実際に抗議に行った父母もいます。被害にあっていない生徒の評価も「ひどい先生」と皆、口をそろえて言っています。

同じようなことが市内のT中学校のサッカー部でも、テストの前日はいつも通りの練習、テストの日も1時間練習、翌日もテストがあるのにです。いくら中体連前とはいえ、1時間の練習が何になるのでしょうか。こんな無能でいい加減な人は教師失格でしょう。

近年は生徒も親も顧問の言いなりのように見えます。昔の生徒は部活と、勉強しっかり両立できていましたし、どちらを優先するのかの自覚もありました。言いなりはダメです。生徒も父母の皆さんも怒らないと駄目だと思います。

『定期テストの結果は!』
今年度最初の定期テストが終わりました。当然ですが、勉強の結果が出た人も出なかった人もいます。今回結果の良くなかった人は、何が悪かったのかをしっかりと見直し、次回のテストに向け取り組みましょう。

成績が良いか悪いかは、頭が良いか悪いかではありません。塾で勉強している姿は皆同じに見えます。結果の出る人を見ていると目標点や目標がしっかりして、ひたすらそれに向かって勉強します。いわゆる「やっつるつもり」ではないのです。

勉強でも部活でも、日常生活でも違いが出るのは能力ではなく、それを行う「姿勢」の差なのです。常に元氣よく挨拶し、忘れ物をせず、時間を守り積極的に行動することです。(チェック表20個で退塾) ちなみに今回のテストでは

3年は福士大陸君の476点、2年生は高橋聖奈子さんの400点、1年生では田中心花さんの426点が最高点でした。

次はみんなも負けないように頑張ってください!

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月		
			●夏期講座			●夏期講座				休塾						海の日 休塾	休塾	★第2回計算特講★					休塾									
																	大きな声であいさつすること、忘れ物をしないこと! チェックは厳しくします!															
一目に一度はR-GROUPの確認をお願いします。																	ストップ 過保護・過干渉!															
7月の予定																																

☆もうすぐ夏休み 夏期講座です☆
新学期もあつという間に3ヶ月が終わって、もう7月です。中3生は修学旅行も終わり、第1回の定期テストも終わって、来年3月4日の入試まで247日で250日を切りました。またセンター試験までは193日です。この夏休みから本格的に、本気で受験モードに入りましょう。

☆夏期講座☆
25日から始まる夏期講座、基本的の中1、中2生は3時間、中3生は4時間です。午前9時から午後6時までです。特に受験生は最大9時間勉強することが出来ます! 志望校に向かって頑張らしましょう。

☆第2回計算特講☆
13日(土)9時から12時の3時間で、第2回の計算特講を行います。前回よりも問題数が増えますがこの3ヶ月で計算力は付いたはずですが。前回は上回る結果が出るように、早く、正確にを心掛けて!

『校則なし』『制服なし』の高校と東京大合格率の意外な関係とは？

東京大合格高校上位校である麻布、筑波大学附属駒場、灘には、事実上、明文化された校則がないとわかっていていい。

灘中学高校の和田孫博校長は、同校ウェブサイトで次のように言う。「本校の生徒たちは自由を謳歌しています。ただ、本校に存在する自由というのは放縦とは異なり、自律心を伴わなければ許されないものです。服装や髪型も自由

ですが、中学生・高校生にふさわしいものでなければなりません」

麻布中学高校の平秀明校長はこう説いている。

「校則というのは、何々をしてはいけないという『拘束』だと思っています。仮に、校則によって中高時代がコントロールされても、卒業したらタガが外れて、自分を律することができなくなるのではないかという懸念があります」

「私は教育現場で統制を強めることはいいことじゃないと思っています。国の考えを注入する機関でもありません。一人の人間としてしっかり確立させるといのが教育の大前提です」(いづれも「弁護士ドットコム NEWS」2018年2月12日)

さすが、前川喜平・元文部科学省事務次官の母校だけのことはある。

麻布の校則について、同校OBの教育ジャーナリスト・おおたとしまさ氏が解説する。

「校則のかわりに、麻布の不文律というものがあります。一つめが鉄下駄禁止。そういう漫画が流行ったときに、鉄下駄を履いてくる奴がいて、床がポロポロになったからです。二つめが麻雀禁止。お金をかけると人間関係がおかしくなるから。昔はお金をかけなければOKでした。三つめは授業中の出前禁止。授業中にラーメンの出前が届き、『そんなもんが授業中にあったらみんな食べなくなっちゃうだろ』と先生が怒鳴って、結局『俺が食べる!』と言って、教卓で食べてしまったという逸話が残っています」

最近はこれに「全裸での外出禁止が加わったようだ」(おおた氏)。近所のコンビニで全裸になった生徒が麻布署に連れて行かれた事件があったからだとか。なかば都市伝説のような話に聞こえるが、おおた氏は「あの学校ならば、ありえる話」だと言う。

校則がない、あるいは、校則が厳しくない学校は、東京大など難関大学合格に実績がある進学校に見られる。生徒の自主性を信頼してのことだろう。

それを象徴するように、東京大合格実績がある高校には制服がないところも多い。2018年の東京大合格高校ランキングトップ5の6校のうち、私服で通学できる学校は半分ある。□筑波大学附属駒場○麻布○灘の3校だ。(○は私立、□は国立、無印は公立。カッコ内は合格者数、以下同)。

筑波大学附属駒場は、文化祭で配布されていた生徒自治会役員会による冊子「筑駒白書2018」に、以下のような表記がある。

「現在制服はありません。特に規定はなく、基本的にどんな服装でも認められています」

この部分にはわざわざ下線が引かれており、それほど強調されているということだろう。

上位20位までの21校でみると、□筑波大学附属○女子学院○武蔵○甲陽学院の4校が加わる。30位なら、国立、旭丘が入ってくる。31校中9校。51位までの60校に広げると、西、仙台第二、○東大寺学園、秋田、都立武蔵、○桐朋、県立長野が登場し、計16校。2割7分だ。

私服通学が可能な進学校は東日本に多く、西日本に少ない傾向がある。とりわけ北海道、長野の公立高校の私服通学率は高い。東京の公立高校も私服が多かったが、最近、制服着用を義務づけるところが出てきた。都立上野は2016年から私服で通えなくなった。都立武蔵は、2008年に附属中学校が誕生したときに中学生は制服着用となったが、高校はいまでも私服通学OKである。

私服通学ができる学校の多くは、もともと制服着用が義務づけられていた。し

かし、1970年前後に全共闘などが登場して大学で学生運動が盛になると、それが高校まで波及。教室、職員室、校長室、体育館をバリケード封鎖した高校もあり、当時、高校紛争と呼ばれた。

当時の高校生たちは制服着用を管理、統制の象徴とみなして、学校側に制服自由化を求めていた。その結果、進学校を中心にいくつかの学校で私服通学が認められるようになった。

その経緯、背景についていくつかの学校の学校史の記述からみてみよう(カッコ内は私服通学が認められるようになった時期)。

●北海道札幌南高校(1972年から) 偏差値71

「高校生の服装は自由にあるべきだとの基本的な考え方に立って次の2点が自由化の理由として打ち出された。

*服装の自由化は時代の趨勢であり、服装を制度化して生徒に着用させる意味が、生徒の自由化への意志方向を否定する根拠としては薄くなった。

*自由に服装を洗濯できることにより生ずる責任、自己規制に対し、むしろ積極的な教育意義を見いだしたい、そして生徒の生活全般の中でこの問題を取りあげ、自主性のある生活態度の資質を養うことができる」(『百年史』1997年)

●宮城県仙台第一高校(1969年から) 偏差値68

「形骸化し強制としか受け取られなくなっているとすれば、そのような制服に固執して教師と生徒の隔たりをますます大きなものとするよりも、勿論マイナスな面を伴うであろうし教師としてそれは苦痛なことであるが、むしろこの際、服装を自由に生徒1人1人の良識と判断に委ねることによって、形を去ってそのもう1つの奥底のところで生徒に接触しなければならないと考えました」(校長から全生徒への申し渡し、『仙台一中、一高百年史』1993年)

●東京都立戸山高校(1972年から) 偏差値72

「学園紛争の時代を経て、制服という拘束への反発は校内に浸透し、昭和47年の生徒規範で男子生徒の制服着用は姿を消し、女子標準服のスカート等改められるが、拘束力は失われた」(『府立四中都立戸山高百年史』1988年)

●長野県長野高校(1969年から)

生徒会で制服自由化を決議。「学校側が強制的におしつけた制服のために自由な行動を奪われぬための反抗である」「制服による学校差意識は明らかに制服を自由によって解消されるものと思われる」等の認識があった。学校はこの決議を受けて「服装規定を廃止する」(『長野高校百年史』1999年)

いま思うに、相当な決断だっただろう。これらの学校は最後の最後のところで、生徒を信頼しようということになったのではないか。

生徒を校則で縛って管理するばかりでは、生徒が息苦しくなる。校則がやたら厳しいほど、それに従うことばかりにきゅうきゅうとして余裕がなくなり、疑問を持ったり、自分でものを考えたりする機会を失いかねない。

生徒をもう少し信頼してもいいのではないか。自由な雰囲気の中なかでも、自分でしっかり考えて、自分の好きなテーマを自主的に勉強する。

2020年度からの入試制度改革は、「自分の頭で考える」を試すことを掲げている。大学教育改革の目玉であるアクティブ・ラーニングは、課題発見、問題解決能力を養い、「自分の頭で考える」力を育むことをめざす。

校則がない。制服がない。だから東京大合格実績につながるという理屈は、もちろん成り立たない。だが、厳しい校則で管理するより、自由な校風のもとでのほうが「自分の頭で考える力」が身につくのではないか——これは、麻布、灘の教員のことばである。(文/教育ジャーナリスト・小林哲夫)

AERA dot. 2018.11.18 教育制服のない北海道の公立高校(定時制・通信制は省略する)

札幌南・札幌西・札幌開成・函館中部・岩見沢東・小樽潮陵・滝川・苫小牧東・旭川東には制服がありません。今年度の国公立大学の合格者数、釧路湖陵は過去最高の人数と喜んでいましたが、その実態は他都市の一番手校と比べると(資料参照)愕然とするものです。入学時は他校とひけを越難関国公立大学の合格率、札幌南の35.5%に対して釧路湖陵はわずか6.3%、北大が14名と東北大1名だけなのです。

制服や校則がその原因なのかどうかは定かではありませんが、結果を見ると関係していると言わざるを得ません。積極性や豊かな感性、自由な発想力と想像力、多様な価値観を育てるには、今すぐ にでも制服、校則は撤廃するべきです。

釧路高専では今から50年前の1969年(昭和44年)に体育館で学生と学校側との団体交渉が行われ、当時、北大名誉教授だった坂本校長が制服、校則の廃止を認めたのです。

それは今に通じる正しい判断だったのです。そのことが今日、高専生と公立高校生との明らかな差になって現れているのです。

自主性と自己責任は表裏一体なのです。AIロボットの偏差値が60近い今、学力が高いだけでは、現代社会、国際社会では通用しない時代です。また、充実した人生を送ることに繋がないのです。子供たちにとって一番問題なのが過保護、過干渉なのです!